

日本のふるさと遠野に根付く

「技能伝承と人財育成」 —かやぶき屋根から介護まで—

遠野高等職業訓練校 校長 照井 文雄

1. はじめに

岩手県のほぼ中央に、四方を山に囲まれた盆地に、知る人ぞ知る「日本のふるさと、民話のふるさと遠野」がある。“むがあし、むがあし、あつたずもな…”で始まり“どんどはれ”で終わる遠野昔話は現代人の心になつかしさと癒しを与えてくれる。その遠野盆地には、南部藩の城下町に広がる在来工法を用いたセンガイ造りと瓦屋根の遠野型住宅と、なまこ壁を用いた白壁の土蔵が密集し、田園地帯を見渡せば、ほっこりとしたかやぶき屋根の南部曲がり家が今でも点在している。その郷に、地場産材の唐松を集製材として校舎に用い、黒瓦と白壁が特徴的な築18年の木造校舎の我が遠野高等職業訓練校がある。



認定訓練校では国内初の木造校舎（H9年建築）

2. 職業訓練の概要

当校は昭和33年に岩手県知事の認可を受け「遠野技能訓練協会」として独立した。当時は建築科・左官科・自転車科・木工科の普通訓練をはじめ、出稼ぎ

者のための技能講習等を実施し、多くの名工や棟梁を生み出してきた。昭和54年には認定訓練団体としての功績が認められ、労働大臣表彰を受賞した。その後、役職員の努力と研鑽により年々訓練生も増加し、平成8年度に国・県・市の補助をいただき新校舎が完成した。現在は、木造建築科・配管科・塑性加工科等の建築関連職種の外、事務科（パソコン・会計・コミュニケーション等の講習）・介護サービス科、洋服科等を実施し、遠野市民はもとより沿岸被災地の人材育成の場として広く利用されている。



実習棟



H27年度入学式

3. 地域に根ざした取組み

3-1 とおの技能まつり

新校舎が完成したものの、当校は山のふもとにあり、知名度は低かった。そこで、ものづくりの大切さや建設業種に就業する若者の確保を兼ねた周知のため、平成11年第1回とおの技能まつりを開催した。訓練生の技能競技会や上棟式を模した餅まき、職人が焼くやきとりなど様々なイベントを企画し、多くの来場者を集め、山の中の訓練校の周知を図った。昨年第16回を迎えパワーアップし、訓練生によるミ

ニ上棟式として建て方を実施、若い大工職人のカッコイイ技術を披露することができた。また、刃ものときボランティアを80歳台の熟年技能士から18歳の大工見習いが、まつりの会場で多くの見物客を集め実施し、市民が持ち寄った包丁等200丁あまりを研ぎあげた。その収益金は遠野市に寄付しており、とおの技能まつりは市民にはなくてはならない行事になってきている。



3-2 技能ボランティアと復興支援

昭和の時代から当校に所属する大工・左官（遠野職業訓練協会会員）の職人は多くのボランティア活動を続けている。小学校の改修・修繕、地域センターの修理、障害者支援施設等の刃ものときや修理作業を実施するなど、地場で働き生きる職人の、気持ちばかりの地域貢献である。また、当校の訓練生もこれに倣いボランティア活動を実施している。平成26年度修了生は被災地の早期復興を祈願し、木造建築科は作業台を、塑性加工科は銅板折り鶴を造り寄贈することで被災地を支援した。津波で何もかも流された被災者からは「君たちは復興のエンジンだ」と復興にはなくてはならない技能者とマンパワーへの期待を込めた心からの言葉に、訓練生は心を新たにしていた。

訓練生の奉仕活動



白澤理事長に「あなた方は、復興のエンジンだ!!」と激励され、心新たに技能士として羽ばたきます

大槌助け合いセンターへ台20脚
銅板折り鶴 贈呈...修了生8名で

4. かやぶき技術と地産地消の取組

平成8年当時、遠野市の原風景また観光資源であるかやぶき屋根が劣化しはじめ、かやぶき屋根を葺ける職人の高齢化が進んでいた。この技術を絶やすことなく継承していこうと国の認定訓練補助事業を活用した「短期訓練かやぶき科」設置し、かやぶき技術の習得に乗り出した。当初は実習棟の中での3坪ほどの屋根台での訓練だった。現在は当時から学んでいる大工職人が重要文化財をも施工できる技術を修得し、20代の職人もその施工技術を学んでいる。



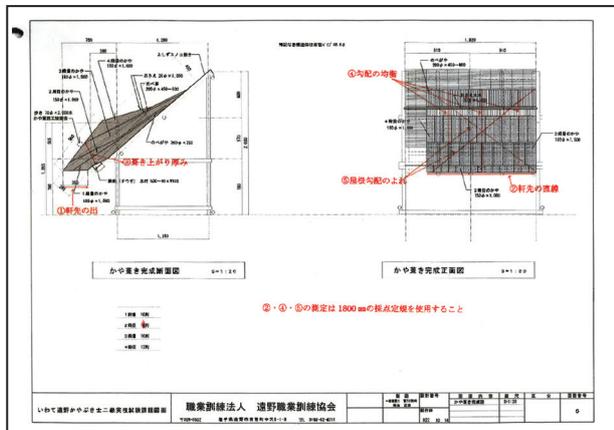
2014年屋根葺き替え完成
国指定重要文化財菊池家住宅（遠野伝承園）

4-1 資格の整備

岩手県知事認定「いわて遠野かやぶき士」

更に平成21年、かやぶき職人の技術の継承だけではなく、その技術と職人のキャリアを評価する制度の創設に取り組んだ。それが「いわて遠野かやぶき士」である。後世に確かな技術を継承するにあたり経験だけではなく、施工方法を文章で、また、その葺き方を図面として表し、これらを適正に施工できる知識と経験と技術を評価し、合格者には1級また

は2級のかやぶき士の称号が贈られる。現在、1級4名2級3名、62歳から25歳までのかやぶき士が誕生し活躍している。



実技試験課題採点基準



2011.2.11 毎日新聞掲載

4-2 茅場の造成と職人養成

人材育成と技能伝承の流れは概ね整ったが、茅の確保が大きな課題だった。地産地消を掲げたものの、今までの屋根に使用した茅はいずれも良質のものではなく、細くススキのような短いものしかなかった。今度は茅の育成にも取り組みを広げた。遠野市にも協力願い、市内各地に茅場を設け、それを会員達が雑草の除去から山焼きまで管理した。1ヶ所の茅場が1ha~2haと管理しやすい面積であるため、山焼きをする毎に太く丈夫な長さ3mもある長い茅の育成にも成功した。当初年間500束の収穫であったが、現在は8000束もの収穫が見込めるようになり、遠野のかやぶき士が遠野産の茅を使って観光施設を施工できる「地産地消」が実現した。

良質の「とおの茅」と美しいかやぶき屋根

現在、各地に10ヘクタールの茅場を管理(山場・休耕田・畑等々)



野焼きをしたことにより、勢いのある、古ものが混じらない、かやが育つ



かやの精製・保管・販売

かやの精製



いわて遠野かやぶき士(岩手県認定)試験に使用



保管状況



本来、かやは3年寝かせると真っ黒な良質なかやになるといわれている。当協会が管理するかやは、3月に刈り取りしているので、乾燥した、葉のおらした状況にある。曲がった根元をカットし、小口をそろえ、真っ黒なものに仕上げ、すぐに施工に寄す。

5. 職業訓練とキャリア支援の大切さ

これまで、遠野高等職業訓練校は建設職種とのかかわりを長くもち、資格取得と技術の向上に取り組んできた。平成9年からは求職者のための県の委託訓練に取り組み、パソコン講習を開始した。その後、介護職の需要が増加し介護の資格取得講習も取り入れた。再就職のための技術技能や知識の習得だけではなく、個々のキャリアを洗い出し、再就職を支援している。再就職するために必要な「強み」や採用側から見た「魅力」とは、多くは年齢・専門的知識・技能・技術が上げられるが、重要視されることとして「経験」や「やる気」、「仕事に対する思想」「チャレンジ精神」「リーダーシップ力」「コミュニケーション能力」等も含まれる。単に訓練を受講して、「〇〇ができるようになった」だけではなく、「自分はこう成りたいと思い行動した結果、この成果を手に入れた」というようなプロセスの支援を重要と考え取り組んでいる。これは、在職者にあっても同じことで、縁あって就職した事業所を簡単に退職とならないよう、キャリアアップもそうだが、自らの行動、相手の立場を考えられる等の社会人基礎力を養う、メンタルを強化していくキャリア支援を展開していくべきと考える。

当校では在職者は事業主の全面的バックアップをいただき、求職者は県・市の支援をいただき、双方連携した事業が実現できていることで、離職者訓練は就職率80%以上の実績をあげており、在職者の認定訓練受講後の離職率も低くなっている。



↑ 介護体験実習



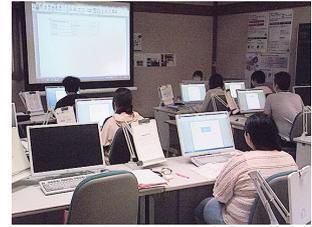
↑ 新入社員研修



↓ 玉掛け技能講習実技



↓ PC講習



↑ かわらぶき検定講習



↑ 紳士服製造講習

6. おわりに

標題にあるかやぶき屋根から介護までという多岐にわたる訓練を実施できているのは、遠野人のまじめで純粋な人柄ならではの賜物と考える。会員、企業、役員、職員、更に遠野市が地域の様々なニーズをここに持ち寄る。みんなで真剣に取り組むを考える。これが遠野の「人財」、人は財産であると考え。この「人財」という文字は、当校に外部講師として来ていただいている講師（会社社長）の受け売りだ。この文字を見たたん、「そうだ！人は材料ではなく、財産なのだ」とあらためて考えさせられた。

かやぶきにせよ、介護にせよ機械では到底できない技術技能を人から人へ伝え、人に返す。人口は3万人をきり、決して裕福とはいえないこの遠野市だが、これからも地道に人財を育成し、ふるさとに根付く事業を今後も展開していくであろう、我が訓練校はそうでありたい。